

須田尾町、猿田彦の石碑について



山祇神社から平戸街道を木風方面へ進んだ左手にブロック塀で囲われた猿田彦〇〇と刻まれた石碑がある。風化が著しく猿田彦の下の文字が消えているように見えるがおそらくは猿田彦大神(さるたひこのおおかみ)と彫られていたと思われる。もしかして裏側にも何か刻まれていたのかも知れないが今は確認することができない。

ブロック塀内には他に猿の石造が1つあり、こちらもかなり風化しているものの裏側に刻まれた文字がかるうじて読めた。「百度 願成就(ひゃくどがんじょうじゅ)」その下に「小森〇〇 五十才 近藤〇子 三十二才」と名前と年齢が彫られていた。

この石碑はなんなのか、なぜこの場所住宅地の真ん中に忽然とあるのか、もしかして神社の跡なのだろうか？ということだが、

200mほど離れた場所にある山祇神社には猿田彦が祀られていて、今は確認することが難しいが鳥居のそばの古木の下に祀ってあるという。山祇神社はもともと烏帽子岳を御神体に見立てた山岳信仰のふもとのお宮として建てられた。猿田彦はその道案内役の神様として祀られたという。

とりあえず付近の人に訪ねてみたところたまたま史談会の吉田さんのご自宅が石碑のすぐ側にあるということが分かったので、お話を伺うことにした。



千里眼・吉田増玄の旧家

お話を伺っているうちに色々と分かってきた。この場所にお寺や神社があったというわけではなく、猿の石造も山祇神社のそれとは関係性はない。実は石碑の周辺はもともと「吉田増玄」という人の旧家があった場所だという、吉田増玄とは天台宗の祈祷・占い師で靈感が強く物事を見通す力いわゆる千里眼だったという。大正時代から昭和の初めまでこの地にお堂を建て修行を行っていたという。

石碑の正面に平屋建ての一軒家があるがそこが旧家があった場所だという、普段は人気がないようだが、時折時津にすんでおられるお孫さんが家の手入れに来られているということだった。平成9年に南地区郷土研究会が編集した「烏帽子は見ていた」によると旧居の仏壇の上部には山伏姿のありし日の増玄師の写真が掲げられているという。

当時は旧宅の裏山の上にお堂があり、神様を祀っていたという。増玄師を慕う信徒が絶え間なく出入りして、祭りもおこなわれていたという。山は宅地となったため祠は現在は下に移されている。猿の石造も、もともとはそのお堂へ続く山道の登り口の両脇に2体置かれていたというが、宅地造成の際に1体は今の場所に移され、残りの1体はどこへ行ったのか分からないという。



低地に移された祠

左から八天宮、愛宕大権現、不動明王、秋葉大権現、日吉山王大権現、摩利四天王



在りし日の吉田増玄師



旧宅跡地

お滝さん

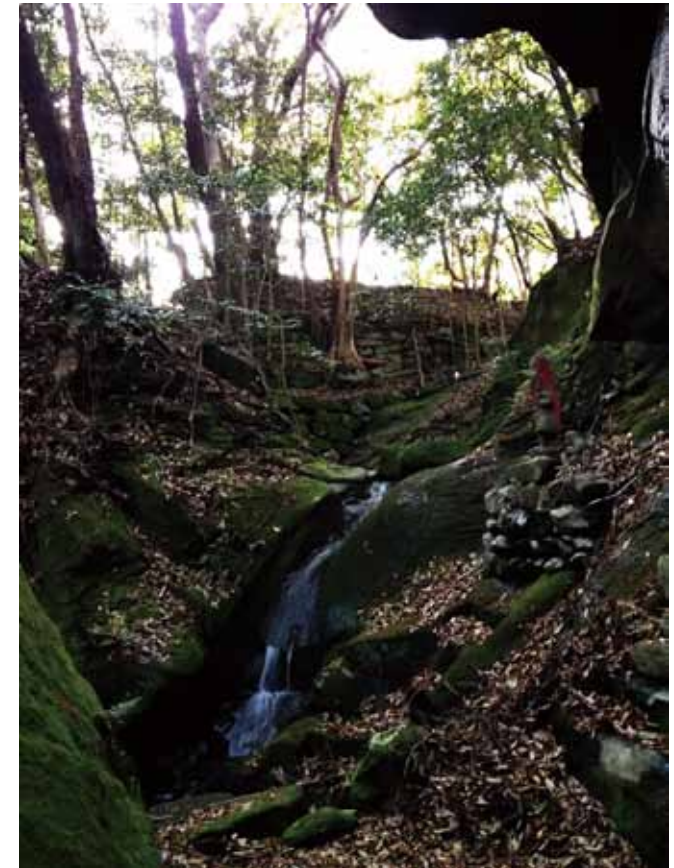
旧宅から200mほど離れた場所にあるお滝さんといわれる場所も実は増玄師が大正末期に土地を買い求め、上の堤から水をひき、滝を作り、滝に打たれる「行」をする霊地を作ったという。当時は白装束を身にまとい滝に打たれ「荒行」をする人々のお経の声が辺りにこだましてすごかったという。

まとめ

今回調査した猿田彦の石碑は吉田増玄師がいた大正時代から昭和初期に造られたものと思われる。やはり信仰する神々への先導の神様として猿田彦大神を祀ったのではないだろうか、同じように猿の石造も神々を祀った山頂へと続く参道の入口に案内役として置いていたものと思われる。

石碑の下には立派な石垣が並んでいる。吉田氏によると、当時ここにお寺を建てる計画があったが、建設途中で亡くなってしまい寺は建てられなかったという。言われてみれば寺の跡地のように見えたことがうなずける。

裏山に残る祠や猿田彦の石碑と石垣、そしてお滝さんなどから、増玄師がいかにして厳しい修行の為に霊地を切り開き多くの人々に慕われていたのか、その業績が偲ばれる。



お滝さん

